

2 評価基準等と自己判定の留意点【FB】

1. 「評価基準」の構成

評価機構は、専門職大学院の教育研究活動などを総合的に評価するために、「基準 1. 使命・目的」「基準 2. 内部質保証」「基準 3. 学生」「基準 4. 教育課程」「基準 5. 教員」の五つの「基準」を定めています。基準は、専門職大学院の基本的な事項で構成されています。「基準 2. 内部質保証」は、その他の四つの基準の評価とも関連付けた重点評価項目として設定しています。

各「基準」には、「本基準の趣旨」が示されています。「本基準の趣旨」とは、「基準」が意図している目的を解説したものです。

「基準」には、評価項目である「基準項目」ごとに、専門職大学院が満たすことが必要な内容が定められています。そして、「基準項目」ごとに、評価する上で必要な「評価の視点」が設定されています。専門職大学院は、「評価の視点」を踏まえて「基準項目」ごとに「満たしている」「満たしていない」の自己判定を行います。

2. 「自己判定の留意点」

この「受審のてびき」には、自己点検・評価と自己判定のために、上記に加え、基準項目ごとに「評価の視点に関わる自己判定の留意点」を記載しています。

「評価の視点に関わる自己判定の留意点」は、自己点検評価書の作成時に留意すべき内容です。これらの内容も踏まえて自己点検・評価を行った上で該当する資料を提出してください。

基準 1. 使命・目的

本基準の趣旨

専門職大学院は、理論と実務を架橋した実践的な教育研究を行う、高度な専門職人材養成を目的とした課程です。専門職大学院は、使命・目的を明確に定めるとともに、教育研究上の目的（研究科又は専攻ごとの人材養成に関する目的）を学則などにおいて明確に定める必要があります。また、それらを、①ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）②カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）③アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）に反映するとともに、使命・目的に整合した教育研究組織を構築し、計画的に使命・目的及び教育研究上の目的を達成していくことが求められます。

基準項目 1 – 1. 使命・目的及び教育研究上の目的の反映

評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点☑
①学内外への周知	<input type="checkbox"/> A. 使命・目的及び教育研究上の目的をどのように学生、教職員、役員、学外関係者に周知しているか。
②中期的な計画への反映	<input type="checkbox"/> A. 使命・目的及び教育研究上の目的を中期的な計画に反映しているか。
③三つのポリシーへの反映	<input type="checkbox"/> A. 使命・目的及び教育研究上の目的を三つのポリシーに反映しているか。
④教育研究組織の構成との整合性	<input type="checkbox"/> A. 使命・目的及び教育研究上の目的を達成するために必要な研究科・専攻などの教育研究組織を整備しているか。
⑤変化への対応	<input type="checkbox"/> A. 社会情勢や組織の改編などに対応し、必要に応じて使命・目的及び教育研究上の目的の検証を行っているか。

基準 2. 内部質保証

本基準の趣旨

評価機構の評価における内部質保証とは、専門職大学院が自己点検・評価を行い、その結果と認証評価などの外部質保証の結果をもとにした継続的な自己改善により、教育研究及び中期的な計画を踏まえた専門職大学院全般の質を保証することです。自主性・自律性を重視する専門職大学院の本質に照らし、専門職大学院の質保証は、基本的に専門職大学院の責任で行うことが求められます。評価機構では、内部質保証を重点評価項目として位置付けています。

内部質保証を効果的に実施していく上で、恒常的な組織体制を整備するとともに、その責任体制が明確になっていることが必要です。また、内部質保証は、三つのポリシーを起点とする教育と研究の質保証と中期的な計画を踏まえた専門職大学院全体の質保証の双方にわたって実施されるとともに、改革・改善のための営みとして行われることも大切です。

加えて、学生や学外関係者（保護者、高校、地方公共団体、民間企業など）の意見・要望を踏まえ、専門職大学院全体の改善につなげる仕組みとして内部質保証を機能させていくことも重要です。

基準項目 2－1. 内部質保証の組織体制

評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点☑
①内部質保証のための組織の整備、責任体制の確立	<input type="checkbox"/> A. 内部質保証に関する全学的な方針を明示しているか。 <input type="checkbox"/> B. 内部質保証のための恒常的な組織体制を整備しているか。 <input type="checkbox"/> C. 内部質保証のための責任体制が明確になっているか。

基準項目 2－2. 内部質保証のための自己点検・評価

評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点☑
①内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価の実施とその結果の共有	<input type="checkbox"/> A. 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価をどのように行っているか。 <input type="checkbox"/> B. エビデンスに基づく自己点検・評価を定期的実施しているか。 <input type="checkbox"/> C. 自己点検・評価の結果を学内で共有しているか。
②IR(Institutional Research)などを活用した十分な調査・データの収集と分析	<input type="checkbox"/> A. 現状把握のための十分な調査・データの収集と分析を行う体制を整備しているか。

基準項目 2－3. 内部質保証の機能性

評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点☑
①学生の意見・要望の把握・分析、結果の活用	<input type="checkbox"/> A. アンケートや学生との対話をはじめとする、学修支援、学生生活、学修環境などに対する学生の意見・要望をくみ上げるシステムを適切に整備しているか。 <input type="checkbox"/> B. 学生の意見・要望の分析結果を教育研究や大学院運営の改善・向上に反映させているか。
②学外関係者の意見・要望の把握・分析、結果の活用	<input type="checkbox"/> A. 学外関係者に意見・要望を聞き、その分析結果を教育研究や大学院運営の改善・向上に生かす努力をしているか。
③内部質保証のための専門職大学院全体のPDCA サイクルの仕組みの確立とその機能性	<input type="checkbox"/> A. 三つのポリシーを起点とした内部質保証を行い、その結果を教育研究の改善・向上に反映しているか。 <input type="checkbox"/> B. 自己点検・評価、認証評価及び設置計画履行状況等調査などの結果を踏まえた中期的な計画に基づいた大学院運営の改善・向上のための内部質保証の仕組みが機能しているか。 <input type="checkbox"/> C. 自己点検・評価、認証評価などの結果を積極的に公表・説明し、学生や学外関係者の理解・支持を得られるよう努力しているか。

基準 3. 学生

本基準の趣旨

教育機関としての専門職大学院は、その使命・目的を達成するために必要な規模の学生を受入れ、その成長を促進し、社会で活躍できるための専門的知識・能力を授けることが求められます。本基準は、そのことを達成するための組織的環境を「学生」の観点から確認するものです。

専門職大学院が学生を受入れるに当たっては、教育研究上の目的に基づいたアドミッション・ポリシーを策定し、それに基づく入学者選抜を適正に行うことが必要です。そして、専門職大学院は、入学後に学生が成長できるように必要な学修環境を整備し、学生生活の安定を図り、組織的な学修支援に取り組むとともに、社会的・職業的な自立のための指導を通じて、自らのキャリアを形成していくことができる力を備えた学生の育成に努めなければなりません。

基準項目 3－1. 学生の受入れ

評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点☑
①アドミッション・ポリシーの策定と周知	<input type="checkbox"/> A. アドミッション・ポリシーを定め、周知しているか。
②アドミッション・ポリシーに沿った入学者受入れの実施とその検証	<input type="checkbox"/> A. アドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜制度を整備しているか。 <input type="checkbox"/> B. 入学者選抜などを、適切な体制のもとで公正かつ妥当な方法により実施し、その検証を行っているか。
③入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持	<input type="checkbox"/> A. 入学定員及び収容定員に沿って在籍学生を適切に確保しているか。

基準項目 3－2. 学修支援

評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点☑
①教員と職員等の協働をはじめとする学修支援体制の整備	<input type="checkbox"/> A. 教職協働による学生への学修支援に関する方針・計画・実施体制を適切に整備・運営しているか。
②TA (Teaching Assistant) の活用をはじめとする学修支援の充実	<input type="checkbox"/> A. 学修支援のために、TA や教育補助者などを適切に活用しているか。 <input type="checkbox"/> B. オフィスアワー制度を全学的に実施しているか。 <input type="checkbox"/> C. 障がいのある学生への合理的な配慮を行っているか。 <input type="checkbox"/> D. 中途退学、休学及び留年などへの対応策を講じているか。

基準項目 3-3. キャリア支援

評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点
①キャリア支援体制の整備	<input type="checkbox"/> A. 卒業後の進路に対する相談・助言体制を整備し、適切に運営しているか。

基準項目 3-4. 学生サービス

評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点
①学生生活の安定のための支援	<input type="checkbox"/> A. 学生サービス、厚生補導のための組織を設置しているか。 <input type="checkbox"/> B. 学生の心身に関する健康相談、心的支援、生活相談、学生の課外活動への支援をはじめとする学生サービスを、学生の多様性に配慮して適切に行っているか。 <input type="checkbox"/> C. 奨学金など学生に対する経済的な支援を適切に行っているか。

基準項目 3－5. 学修環境の整備

評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点☑
①校地、校舎などの学修環境の整備と適切な管理運営	<input type="checkbox"/> A. 教育研究上の目的の達成のために必要な校地、校舎などの施設・設備を整備し、適切に管理運営しているか。 <input type="checkbox"/> B. 快適な学修環境を整備し、かつ有効に活用しているか。 <input type="checkbox"/> C. ICT 環境を適切に整備しているか。
②図書館の有効活用	<input type="checkbox"/> A. 図書館を十分に利用できる環境を整備し、教育研究に資する十分な学術情報資料を提供しているか。
③施設・設備の安全性・利便性	<input type="checkbox"/> A. 施設・設備は、バリアフリーなど安全性と利便性を図り、学生の多様性に配慮しているか。 <input type="checkbox"/> B. 施設・設備の安全性（耐震など）を計画に基づき適切に管理しているか。

基準 4. 教育課程

本基準の趣旨

教育課程は、研究科または専攻などごとに定められた教育目研究上の目的に沿い、かつ、学生のニーズや関係業界の人材養成への期待を踏まえる必要があります。また、その内容、水準は、授与される学位との関連で適切であることが求められます。単位認定や修了認定の基準を定めて、これを厳正に運用するとともに、教育課程の編成と実施に反映させる必要があります。また、学修成果の把握・評価方法の確立・運用を通じて、専門職大学院の教育を可視化し、外部からの評価を受けながら、更なる教育課程、教育内容・方法及び学修指導などの改善を不断に図っていくことが、教育の質を高めるために不可欠なことです。

基準項目 4－1. 単位認定、修了認定

評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点☑
①ディプロマ・ポリシーの策定と周知	<input type="checkbox"/> A. ディプロマ・ポリシーを定め、周知しているか。
②ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、修了認定基準などの策定と周知、厳正な適用	<input type="checkbox"/> A. ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定、修了要件などを適切に定め、周知し、厳正に適用しているか。

基準項目 4－2. カリキュラム・ポリシーの明確化

評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点☑
①カリキュラム・ポリシーの策定と周知	<input type="checkbox"/> A. カリキュラム・ポリシーを定め、周知しているか。
②カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの一貫性	<input type="checkbox"/> A. カリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーとの一貫性を確保しているか。

基準項目 4-3. カリキュラム・ポリシーに沿って理論的教育と

実務的教育の架橋に留意した体系的な教育課程 の編成

評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点☑
①教育課程連携協議会の適切な構成と運営	<input type="checkbox"/> A. 教育課程連携協議会を適切に構成し、運営しているか。 <input type="checkbox"/> B. 教育課程連携協議会は、急速に進行しているファッション業界の変革や構造改革に向合った教育が行われるよう、適切に対応しているか。
②教育課程連携協議会の意見を踏まえ、カリキュラム・ポリシーに沿った授業科目の適切な配置と、理論的教育と実務的教育の架橋に配慮した体系的な教育課程の編成	<input type="checkbox"/> A. カリキュラム・ポリシーに沿った授業科目を適切に配置しているか。 <input type="checkbox"/> B. カリキュラム・ポリシーに即し、理論的教育と実務的教育の架橋に配慮した体系的な教育課程を編成しているか。 <input type="checkbox"/> C. 教育課程編成のための体制を整備しているか。
③ファッション・ビジネス系の職業分野における人材養成及び学位名称に照らして適切な人材養成の期待に応え得る教育課程の内容・水準	<input type="checkbox"/> A. 人材養成及び学位名称に照らして、教育課程の内容が適切な水準であるか。

<p>④次の各事項を踏まえた教育課程の内容</p> <p>1. 教育課程が、クリエイションとマネジメントを総合的に扱うファッション・ビジネスの実務に必要な専門的な知識、思考力、分析力、創造力、企画力などをグローバルな視点で修得させるとともに、高い倫理観を持つプロフェッショナルの人材を養成する観点から適切に編成されていること。</p> <p>2. 以下の科目が養成目的に応じて重点的に、かつ、バランス良く履修できるよう、教育課程が編成されていること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファッション・クリエイションに関する科目 ・ファッション・テクノロジーに関する科目 ・ファッション・マネジメントに関する科目 ・総合的な専門性に関する科目 <p>3. 基本的な内容、発展的な内容、実践的な内容、事例研究などを取扱う科目がそれぞれ開設されるなど、段階的な教育を行うことができるよう教育課程が編成されていること。</p> <p>4. 人材養成目的を達成するための理論科目と実技科目のバランス</p>	<p>□ A.ファッション・ビジネス分野の専門職大学院として必要な科目がバランスよく配置されているか。</p>
<p>⑤人材養成目的に合った履修モデルの設定</p>	<p>□ A.人材養成目的を踏まえた履修モデルなどを明示しているか。</p>

基準項目 4－4. 教育研究上の目的に相応しい授業形態、学修指導などの

実効性

評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点☑
①履修登録単位数の上限の適切な設定など、単位制度の実質を保つための工夫	<input type="checkbox"/> A. 履修登録単位数の上限の適切な設定など、単位制度の実質を保つための工夫を行っているか。
②教育研究上の目的を踏まえ実践的な教育を行うよう、インターンシップや、ケース・スタディ、フィールド・スタディ、双方向または多方向に行われる討論など授業方法について専門職大学院としての特色ある工夫	<input type="checkbox"/> A. 授業内容・方法などについて、専門職大学院として特色ある工夫をしているか。 <input type="checkbox"/> B. 授業方法などについて、留学生などに配慮しているか。
③1年間の授業計画、授業の内容・方法などが明記されたシラバスの作成と活用	<input type="checkbox"/> A. 授業計画、授業の内容・方法などをシラバスに明記し、活用しているか。
④授業を行う学生数の適切な設定	<input type="checkbox"/> A. 一つの授業科目について同時に授業を行う学生数(クラスサイズなど)は教育効果を十分上げられるような人数となっているか。

基準項目 4－5. 学修成果の把握・評価

評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点☑
①三つのポリシーを踏まえた学修成果の把握・評価方法の確立とその運用	<input type="checkbox"/> A. 三つのポリシーのうち、特にディプロマ・ポリシーを踏まえた学修成果を明示しているか。 <input type="checkbox"/> B. 日本人学生と留学生の学修状況・資格取得状況・就職状況（就職先や業務内容、創業などの卒業時の動向）の調査、学生の意識調査、就職先の企業アンケートなどにより、学修成果を大学院が定めた多様な尺度・指標や測定方法に基づいて把握・評価しているか。
②教育内容・方法及び学修指導などの改善へ向けての学修成果の把握・評価結果のフィードバック	<input type="checkbox"/> A. 学修成果の把握・評価の結果を教育内容・方法及び学修指導の改善にフィードバックしているか。

基準 5. 教員

本基準の趣旨

専門職大学院は、その使命・目的を達成するよう教員の組織編成に関する基本方針を明確にした上で、この方針に沿うとともに専門職大学院設置基準などの法令上の基準を充足するよう、必要な教員を確保し適切に配置することが求められます。また、教員の教育研究活動を支援する体制を整えるとともに、教育研究活動の向上のための教員による組織的な取り組みが行われるようにする必要があります。

基準項目 5－1. 教育課程を遂行するための教員配置の適切性

評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点☑
①教員の組織編成に関する基本方針の明確化と、この方針に基づいた教育課程を運営するために必要な教員の確保、適切な配置	<input type="checkbox"/> A. 教育研究上の目的を踏まえた組織編成の基本方針を適切に設定しているか。 <input type="checkbox"/> B. 学位の種類及び分野に応じて、専門職大学院設置基準上必要な教員を確保し、適切に配置しているか。
②教員の組織編成に関する基本方針について、教員（実務家教員を含む）の数及び資格に関する専門職大学院設置基準の関係規定の遵守	<input type="checkbox"/> A. 教員の資格に関する専門職大学院設置基準の関係規定を遵守しているか。
③教員構成（専門分野、実務家教員と研究者教員など）のバランスの適切性	<input type="checkbox"/> A. 専門職大学院設置基準上必要な教員の専門分野のバランスがとれているか。 <input type="checkbox"/> B. 専門職大学院設置基準上必要な教員における実務家教員と研究者教員のバランスがとれているか。

基準項目 5－2. 教員の採用・昇任方針の明確性、運用の適切性

評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点☑
①教員の採用・昇任の方針の明確化と、採用・昇任の方針に基づく規定の設定、適切な運用	<input type="checkbox"/> A. 教員の採用・昇任の方針に基づく規定を定め、かつ適切に運用しているか。

基準項目 5－3. 教員人事における意思決定の適切性

評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点☑
①教員人事における専門職大学院の意思決定組織の整備、権限と責任の明確性及びその機能性	<input type="checkbox"/> A. 教員人事における学内の意思決定組織を適切に整備しているか。 <input type="checkbox"/> B. 教員人事における意思決定の権限と責任体制が明示され、機能しているか。

基準項目 5－4. 教員の教育研究活動を支援・活性化する体制の

適切性

評価の視点	評価の視点に関わる自己判定の留意点☑
①教員の教育研究活動を支援する RA (Research Assistant) などの適切な活用と研究費などの資源の適切な配分	<input type="checkbox"/> A. 教員の教育研究活動を支援するために、RA などを適切に活用しているか。 <input type="checkbox"/> B. 教育研究目的を達成するための資源 (研究費など) を、適切に配分しているか。
②授業の内容・方法の改善・向上のための組織的な FD (Faculty Development) などの実施とその成果	<input type="checkbox"/> A. 教育研究活動の向上のために、FD など組織的な取組みを適切に行っているか。
③教員の教育研究活動を活性化するための評価体制の整備と適切な運用	<input type="checkbox"/> A. 教員の教育研究活動を活性化するために、教員評価を行っているか。